

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	聖隷こども発達支援事業所かのみあ富丘		
○保護者評価実施期間	2024年 9月 14日		～ 2024年 9月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	2024年 9月 14日		～ 2024年 9月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設内に幼保連携型こども園が併設しており、園庭にはインクルーシブ遊具を設置している。個々の発達段階に沿った支援と、生活年齢や興味関心に沿った環境等、人的、物的にも柔軟な環境構成が可能となっている	個々の育ちや興味に沿う体験を提供するため、行事や設定活動に限らず、こども園園児と一緒に過ごす空間と機会を安全な範囲でもてるよう、こども園と相談・調整している	インクルージョンを推し進めるため、こども園と事業所とのそれぞれの配置を満たした職員交換が可能となるよう、施設設備の安全な活用を目的とした、月次計画のクラス間共有をこども園と共に継続しつつ、加えてこどもの発達や特性、行動特徴や留意点などをふまえた互いの支援内容等にも触れる機会を設ける
2	面談以外に、送迎時や療育参加、家庭訪問等の他、ICTシステムも活用し、保護者の状況や意向に沿う方法で本人の支援に向けた共有を時機に応じ速やかに実施している	連絡帳や送迎時の対話などで解消、軽減しにくい相談については、方法について保護者やご家族の意向を確認しながら個別面談や家庭訪問などで対応している	保護者がすぐに相談できる体制、相談しやすい方法や仕組み、手段を広げていくため、他事業所の取り組み情報を収集したり、保護者よりご意見や意向の聞き取りを行ったりする
3	看護職員が毎日複数名常駐しており、医療的ケアや重症心身障がいのあるおこさまへの看護はもとより、保護者の意向や主治医の判断により、適宜事業所嘱託医の指示による、より細やかな健康管理を行っている	全利用児について、クラス職員に加え看護職員による健康管理を行っている。看護の視点でより留意すべき配慮や対応が類推される場合は、保護者の意向を確認しながら主治医による具体的指示を嘱託医宛にいただき、事業所内で共有した上で看護職員による対応を行っている	嘱託医や看護職員による事業所内勉強会等で、個別の要配慮事項について全職員が承知している状況を維持していく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	プログラム化された効果的で実践可能な取り組みにつながる家族勉強会について、導入が十分でない	ペアレントプログラムの有資格職員は複数名いるが、事業所内でプログラムを実践するための準備が十分に進んでいない	ペアレントプログラムの有資格職員を中心とし、研修会の組み立てと実践、効果測定を行う仕組みを作る
2	遠足のきょうだい児参加が多く、今年度は短時間ではあったが、きょうだい児同士の交流の機会が持た。しかし、きょうだい児に限らず、祖父母など家族を主体とした活動は、まだ十分とは言えない	送迎を祖父母が担う家庭も少なくない中、祖父母を含め家族を対象とした事業所の取り組み案内や、意見聞き取りなどが十分に行えていない	保護者に加え、家族の思いや意向など聞き取る機会や方法を検討する。また、家族においても当事者同士がつながる機会を検討する
3	事業所の活動状況や活動プログラムの内容が、保護者に十分に行き届いていない	年度初めに、年間計画と合わせて活動プログラムについて説明を行っているが、年度途中にお伝えする機会は十分にもていない。また、施設だよりやSNS等、他の媒体の活用が進んでいない	懇談会や行事時、また療育参加等の機会を活用し、細やかにプログラムの内容について触れていく。また、保護者や家族の情報収集の方法や常用するツールについて把握し、保護者が求める情報についても、アンケート等で定期的に確認する